

## MEC産婦人科講座

### 図や表を活用した解説で細かな数値や所見をスムーズに記憶する

産婦人科は国試で約30問出題されています。出題される部分が明確なため、要点を押さえて効率よく勉強すれば得点源になる科目です。しかし、ほかの領域に比べると、細かい数値(推定週数・Bishopスコアなど)や所見(妊娠・胎位・胎向など)を覚えなければなりません。本講座では、産婦人科の臨床医が豊富な図や表、画像を活用し、人形の模型を使って解説するため、具体的なイメージをもって理解することができます。



### 産婦人科を効率良く対策

第109回から113回医師国家試験(5年分)の産婦人科の全問と、第107回以前の重要問題とをあわせて約800問掲載しています。国試で必要とされる産婦人科の覚えるべき点を整理し、「MEC臓器別講座」と同じ切り口で講義するため、20単位で効率良く産婦人科対策を完結することができます。「MECサーチ」では掲載されているすべての過去問の解説を確認することができますので、復習にも役立ちます。

#### 講義要項(20単位)

産婦人科総論 / 正常妊娠 / 妊娠初期 / 妊娠中期 / 妊娠後期 / 妊娠合併症 / 分娩 / 産褥 / 月経異常と不妊 / 婦人科腫瘍 / 感染症 / 更年期障害

20

## 小児科対策講座

### 小児科特有の考え方を理解する

小児科は国試で約30問出題され、範囲も膨大です。加えて専門的知識が必要となるため、独自で対策するのは困難です。小児科特有の考え方はほぼすべての成人疾患にも当てはまる一方で、「子どもにステロイドを使う場合の注意点」「髄膜炎患者の大人と子どもの症候の相違」などもあり、範囲は多岐にわたります。そのため実際の小児の姿をイメージすることが、得点力の向上、さらには臨床力アップにも結びつきます。本講座の前半部分(成長総論～新生児疾患)には、具体的な育児エピソードが含まれており、成長発達について細かく理解できます。また、後半(呼吸器疾患～)では扱う臓器ごとの疾患において、小児科特有の考え方を病態生理から解説しています。

### 視覚的な講義で記憶に残す

4コマ漫画やイラストを用いたテキストで、小児の成長や発達を具体的にイメージしながら学習できます。また、小道具を使用したり、患者さんの身体所見を体で表現したりすることで、小児特有の疾患を具体的に理解できます。

#### 講義要項(15単位)

成長総論 / 栄養 / 診察必修 / 新生児疾患 / 呼吸器疾患 / 循環器疾患 / 消化器疾患 / 血液疾患 / 腎・泌尿器疾患 / 神経・精神疾患 / 悪性腫瘍 / 先天代謝異常 / 内分泌代謝 / 免疫不全 / アレルギー / 感染症 / 先天異常 / 禁忌肢これ1問 / Dr.孝志郎のBed Side Learning(小児科)

15

## マイナー対策講座

### 対策が難化するマイナー分野を得点源にできる

安定した出題割合が続くマイナー科目。出題傾向は以前の一部専門性の高い問題から、頻出疾患でも細かい知識を問うような問題も増加し、内科同様、単なる暗記や繰り返しの演習では対応しにくくなっています。そこでメックでは、専門分野で活躍している講師や、その科目の対策を得意とする講師によって、各科の特徴をうまくとらえた網羅型の講義を行っています。うわべだけの知識とならないよう、疾患知識を丁寧に整理し、その上で臨床現場でのエピソードや実際の器具を用いるなどして、臨床傾向の強い現在の国試に対応した講座となっています。

### 学習の優先順位を設定

過去10年分の過去問を完全網羅し、その上で古い問題であっても重要な問題には「★」をつけることで、学習の優先順位を明確にしています。まずは★問題から学習し、それらの内容を理解した上で、他の問題へ進みましょう。掲載しているすべての過去問の解説を「MECサーチ」で確認することができますので、マイナー分野の対策を完結することができます。

### 臨床医を講師として採用

症例を前提とした解説により、疾患における患者イメージがつかみやすい講義となっています。これらは各科目の専門医など、“現場を知るドクター”が講義しているためです。またマイナー科目では、救急診療に必要な知識を問われる傾向にもありますが、これらについても担当講師により、分かりやすく解説されています。

#### 講義要項(40単位)

精神科(8) / 皮膚科(5) / 泌尿器科(6) / 眼科(6) / 放射線科(3) / 整形外科(6) / 耳鼻咽喉科(6)

40

### 国試出題割合からみる重要性

第112回より、国家試験が500問から400問へと変更されました。総論・各論分野での一般問題が200問から100問へ減少し、基本的事項を問うような問題は、CBT試験で扱われるようになりました。

科目ごとの問題数と割合の変化を見ていくと、内科の減少と公衆衛生の増加が顕著となり、小児科、産婦人科、マイナーの出題割合は横ばいとなっています。マイナー科目の対策は、引き続き重要と考えられます。

科目	第111回	第112回
内科	223問(45%)	163問(41%)
小児科	34問(7%)	30問(7%)
産婦人科	35問(7%)	26問(7%)
マイナー	77問(15%)	60問(15%)
公衆衛生	71問(14%)	66問(17%)
その他	60問(12%)	55問(14%)

## 症候学講座

### 必修脳を鍛える

国試対策の勉強をする際には、参考書等で臓器別・疾患別に勉強する方法が中心です。しかし、実際の臨床現場では診察時に、患者さんの主訴から鑑別・疾患を考え、検査や治療を選択します。近年の国試でも同様に、症候別の視点をもっているかが試される問題が多くなっています。本講座は、「病歴・症候・身体診察」「検査・治療」という観点で実際の診察時をイメージした学習をすることが可能で、それにより「必修脳」が鍛えられ、必修問題での安定した得点力を身につけることができます。症例別の視点は研修医になってからも必要な能力であり、その基礎トレーニングにも最適です。

#### 講義要項(10単位)

夜間悪化する咳や呼吸困難 / 失神 / 動悸 / 43歳の男性。咳が止まらなくて息が苦しい / 54歳の女性。血痰が出た 等

10